

【10-3-7】 主要科目の特長（国際文化学部国際文化学科）

国際文化学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞（＜身体理解＞）、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞（＜身体理解＞）、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

(2) 専門科目

① 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化理解」「国際文化交流」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1・2年次必修科目の「英語演習 1～6」を設置し、《NGU 教養スタンダード科目》＜国際コミュニケーションスキル＞と有機的に連動した外国語教育体系を構築しています。これらは国際文化を学修するための基本的なスキルであり、同時に 2 年次必修科目の「異文化コミュニケーション論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化理解・国際交流を推進させるための学習体系となっています。また、「比較文化・社会論 1」を 2 年次必修とし、ヨーロッパの文化・社会と日本文化・社会のあり方を比較考察することで、多文化理解の糸口をつかむことができるようになっています。

この他、選択科目として以下の 13 科目を 1・2 年次に配当しています。

「比較文化・社会論 2」「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「東西交渉史」「観光文化論」「現代芸術論」「メディア文化論」「情報文化論」「多文化教育論」「人間行動論」「比較認知科学」「比較社会心理学」「現代経済入門」

② グローバル文化展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《グローバル文化展開科目》および《日本アジア文化展開科目》が配置され、学生は適切な履修モデルを参照しつつ、広範な文化体系の中から各自の専門的分野を選択することができます。それは「地域」ベースの選択と「文化の理論や構造」の選択的学修によって構成されています。《グローバル文化展開科目》は、アメリカ、ヨーロッパをはじめ世界を構成する現代の文化圏について、地域的文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解するとともに、文化の成立・変容・地域化などを学ぶことが可能となります。2・3 年次の選択科目として以下の 21 科目を配置しています。

「アメリカ社会文化論」「アメリカ政治経済論」「英米文学概論 1」「英米文学概論 2」
「英米文学講義 1」「英米文学講義 2」「英文学史」「米文学史」「ヨーロッパ文化総論」
「ヨーロッパ地域文化論 A」「ヨーロッパ地域文化論 B」「ヨーロッパ地域文化論 C」
「地中海文化圏論」「日欧交流史」「環太平洋地域文化論」「イスラム文化圏論」
「文化変容論」「マイノリティ論」「比較文化行動論」「グローバル経済論」

③日本アジア文化展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《グローバル文化展開科目》および《日本アジア文化展開科目》が配置され、学生は適切な履修モデルを参照しつつ、広範な文化体系の中から各自の専門的分野を選択することができます。それは「地域」ベースの選択と「文化の理論や構造」の選択的学修によって構成されています。この《日本アジア文化展開科目》の科目区分では、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に理解するとともに、中国文化圏をはじめとしたアジア諸国の歴史と現状を学びます。2・3年次の選択科目として以下の16科目を配置しています。

「日本文化史」「日本の思想」「日本の民俗学」「日本社会論」「日本地域史論」

「日本アジア交流史」「現代中国事情」「中国文化社会論」「韓国文化社会論」

「現代アジア文化社会論」「南アジア文化社会論」「日中関係論」「中国社会経済論」

「日本のポップカルチャーとアジア」「アジアの商習慣」「アジア就業事情」

④国際協力関連科目

国際協力学科開設科目のうち《国際協力関連科目》として選択6科目を設置し、本学科の教育目標である国際文化理解・国際交流をさらに一步進めた国際協力の視野を修得することができます。

⑤留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディーツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する長期留学（1年間）や中期留学（およそ6か月）に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディーツアーでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情1~4」として認定されます。

(3) 演習科目

《演習科目》は1年次から卒業まで必修として配当されています（1年次においては《NGU教養スタンダード科目》の枠組みで設置）。2年次に配当される「国際文化基礎演習1・2」では国際理解・交流の基礎を学び、3・4年次に配置されている「国際文化演習」では担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。また、「国際文化理解実践論1・2」において国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションを学び、海外で実施される短期研修での体験と有機的に結合させるようにプログラム化されています。

◎専門科目の一部をピックアップ

日本アジア交流史

日本の歴史や文化を理解するには、アジアとの交流という視点が欠かせません。この講義では、前近代における日本とアジア諸国・諸地域との交流の歴史を学び、アジア世界での日本の位置づけを考察するとともに、現代の複雑な国際関係への理解も深めます。

ヨーロッパ文化総論

ヨーロッパの多様な文化を貫く原理と地域的諸問題を、映画教材などを取り上げながら考えます。長い歴史の中で、多くの異文化との交流や戦争によって形成されたヨーロッパ地域の文化的特色と地域的独自性に着目し、文化と社会のあり方を探ります。

人間行動論

日常生活に見られるありふれた行動を取り上げ、それらが引き起こされる条件について考察します。自分の普段の行動を振り返り、その行動が起こる原因を突きとめることで、環境を変えるなどの工夫を行い、問題を改善できるようになります。